

中間とりまとめで掲げた指標の現状

1 指標設定の考え方

- 「東京の資源循環及び廃棄物処理に係る施策の方向性 中間とりまとめ」（以下「中間とりまとめ」という。）第 2 章で掲げた 2030 年度のあるべき姿に向け、廃棄物に係る施策の取組の進捗状況及び資源効率性の達成状況を定量的に把握することを目的
- 関連データの取得及び推計の容易性を勘案しつつ、施策の全般の進捗を測ることができるものを指標として設定

2 指標の種類

- 上記の考え方を踏まえ、中間とりまとめ第 2 章で三本の柱として掲げた政策分野に関連する指標を整理（表 1 参照）

表 1 指標の種類と現状

三本の柱	性格	指標	現状
①持続可能な資源利用の実現	資源効率性を測るための指標	・一般廃棄物排出量 ・プラスチック焼却量 ・食品ロス発生量 ・一般廃棄物再生利用率 ・最終処分量 ・資源生産性 ・一人当たりの天然資源投入量 ・入口側の循環利用率 ・出口側の循環利用率	4,414 千トン（2018） 約 70 万トン（2018） 51 万トン（2017） 22.8%（2018） 963 千トン（2018） 81 万円／トン（2017） 8.6（トン／人）（2017） 9.9（%）（2017） 37.4（%）（2017）
②廃棄物処理システムのレベルアップ	廃棄物行政の取組の進捗を測るための指標	・一般廃棄物排出量（再掲） ・一般廃棄物再生利用率（再掲） ・最終処分量（再掲） ・電子マニフェスト普及率 ・第三者評価事業者への産廃処理の委託割合 ・PCB 処理量 ・域内の不法投棄件数	4,414 千トン（2018） 22.8%（2018） 963 千トン（2018） 70.3%（2018） 収集運搬：58.7%（2018） 処分：53.3%（2018） 変圧器類：96.8%（2019） コンデンサ類：96.4%（2019） 72 件（2019）
③社会的課題への果敢なチャレンジ	社会的課題への取組の状況を測るための指標	・区市町村災害廃棄物処理計画策定率 ・一般廃棄物処理に伴う二酸化炭素排出量	56.5%（2020） 172 万トン-CO2（2018）